

事業番号	122
------	-----

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	高齢者生きがい活動施設管理事業						担当部	健康福祉部							
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系		担当課	地域福祉課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	長寿福祉係							
	総合計画 分野別計画	主目的	2 保健・福祉		8 高齢者福祉		1 高齢者の社会参加と生きがいづくりを支援します									
		副目的														
	予算区分	款	3		項	2		目	1		大	4		中	2	
	根拠法令・個別計画	小牧市高齢者生きがい活動施設の設置及び管理に関する条例														
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	市内に居住する60歳以上の高齢者に就業機会を提供し、高齢者がこれまで培った技術や経験を社会で発揮できるようにする。														
	内容 (手段)	<p>市内に居住する60歳以上の高齢者に就業機会を提供するために、高齢者生きがい活動施設の第1みどりの里、第2みどりの里の管理・運営を指定管理者である(社)シルバー人材センターに委託する。施設を通じて健康の増進と社会交流を図り、高齢者の生きがい活動を推進する。</p> <p>平成26年度から平成29年度までの指定管理者を選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者生きがい活動施設第1みどりの里 活動内容・みつばの水耕栽培、花苗の育成、軽作業など ・高齢者生きがい活動施設第2みどりの里 活動内容・みつばの水耕栽培、軽作業など <p>◆25年度直接経費の内訳 高齢者生きがい活動施設管理運営委託料 24,240千円 備品購入費 203千円</p> <p>◆26年度直接経費の内訳 高齢者生きがい活動施設管理運営委託料 27,301千円 修繕料 1,500千円 備品購入費 1,100千円</p>														
	受益者負担	無														

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額	
			直接経費	千円	25,153	27,858	24,443
費用	正職員	従事者数	人	0.03	0.03	0.03	0.03
		人件費	千円	157	157	157	157
	その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
		人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	25,310	28,015	24,600	30,058	
	対前年比	%		110.6	87.8	122.1	
財源	一般財源	千円	25,310	28,015	24,600	30,058	
	国・県支出金	千円	0	0	0	0	
	その他財源	千円	0	0	0	0	

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	開場日数 (第1みどりの里)	日	目標		242	246	244
実績				242	246	244	
開場日数 (第2みどりの里)	日	目標		242	246	244	243
		実績		242	246	244	
績		目標					
		実績					
成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26	
延利用者数 (第1みどりの里)	人	目標		5,800	5,800	5,800	5,800
		実績		5,789	6,027	5,779	
延利用者数 (第2みどりの里)	人	目標		5,870	5,800	5,800	5,500
		実績		5,256	5,364	5,424	

事業の自己評価	事業の達成状況	市内に居住する60歳以上の高齢者に就業機会を提供するために、第1みどりの里及び第2みどりの里を運営し、施設を通じて健康の増進と社会交流を図り、高齢者の生きがい活動を推進した。 第1・第2みどりの里ともに開場日数について目標を達成できたが、延利用者については、第1みどりの里については、目標をやや下回り、第2みどりの里については、目標に近づけることができなかった。	
	事業実施における課題	現在の厳しい経済状況の影響から高齢者の就業機会が少ない。 水耕栽培に変わる新規事業を開拓が課題である。	
	事業を縮小・廃止したときの影響	社会参加を希望する高齢者の雇用機会が少なくなる。	
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	雇用者及び収益の増加を目指し、みどりの里における栽培種目及び事業検討を引き続き行う。
平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	今後の高齢社会に高齢者生きがい活動施設は必要であり、今後も高齢者の就業機会確保を図るとともに、高齢者の生きがい活動を推進していく必要がある。	
	27年度以降の改善案	26年度の改善を見ながら、引き続き栽培種目及び事業検討を行っていく。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。